

病害虫発生予察注意報 第3号

富山県農林水産総合技術センター所長

斑点米カメムシ類の多発に注意(第2報)

斑点米カメムシ類は畦畔・雑草地で依然多く見られ、斑点米被害の増加が懸念されます。出穂後の本田防除の徹底が必要です。

◎病害虫名 斑点米カメムシ類 (アカスジカスミカメ等)

1 発生地域：県下全域

2 発生程度：多い

3 注意報発令の根拠

- (1) 水稻病害虫発生予察定点調査ほ場周辺の畦畔・雑草地ですくい取りによる調査を行ったところ、確認地点率は77.8%（平成58.9%）と高く、捕獲頭数は13.5頭と平成（5.4頭）より多く、多発した前年（14.1頭）並である（表）。
- (2) イネ科雑草の除草が不十分な畦畔・雑草地でカスミカメムシ類の生息密度が高い傾向にある。
- (3) 新潟地方气象台によると北陸地方の向こう1か月の気温はかなり高く、降水量は平成並か少ないと予報されており、斑点米カメムシ類がさらに増殖するおそれがある。

4 防除対策

【雑草対策】

- (1) イネ科雑草の穂は斑点米カメムシ類の好適な餌となるため、畦畔等はイネ科雑草の穂が出ないように草刈りを徹底する。やむを得ず、出穂している雑草を草刈りする場合は、本田薬剤防除の直前に行う。
- (2) アカスジカスミカメやクモヘリカメムシは、ノビエやホタルイの穂を好むため、水田内の除草を徹底する。

【薬剤防除】

- (1) 「てんたかく」等の早生品種は、穂揃期と傾穂期の2回の基本防除を確実に実施する。また、「コシヒカリ」等の中生品種及び晩生品種は、穂揃期の防除を徹底する。
- (2) クモヘリカメムシの発生の多い地域は、品種を問わず穂揃期と傾穂期の2回防除を実施する。
- (3) 基本防除後も斑点米カメムシ類がほ場内で確認される場合は、追加防除を確実に実施する。なお、トゲシラホシカメムシが優占する場合は、有機リン剤等で防除する。
- (4) 防除の際は、畦畔にも薬剤がかかるように散布する。
- (5) 周辺に雑草地や麦あと等の不作付地があるほ場は、斑点米カメムシ類の発生が多くなる場合があるため、特に防除を徹底する。

※農薬散布にあたっては、事前に周辺住民等に対して十分な周知に努め、周辺作物や住宅地等への飛散防止を徹底するとともに、農薬の使用回数、使用時期等の基準を遵守する。
※養蜂が行われている地域では、農薬散布前に養蜂業者へ連絡するなど、ミツバチへの危害防止対策に努める。

【参考資料】

◎ 斑点米カメムシ類生息密度調査結果

表 畦畔・雑草地における斑点米カメムシ類調査結果

令和7年7月16～18日調査

	カスミカメムシ類				トゲシラホシカメムシ		クモヘリカメムシ		合計 (その他カメムシを含む)	
	アカスジカスミカメ		アカヒゲホソミドリカスミカメ		確認地点 率(%)	調査地点 平均頭数	確認地点 率(%)	調査地点 平均頭数	確認地点 率(%)	調査地点 平均頭数
	確認地点 率(%)	調査地点 平均頭数	確認地点 率(%)	調査地点 平均頭数						
本年	51.1	4.9	46.7	7.8	22.2	0.3	2.2	0.04	77.8	13.5
前年	48.9	6.7	33.3	6.8	15.6	0.2	4.4	0.09	68.9	14.1
平年	43.3	3.0	22.7	2.0	10.2	0.1	2.4	0.05	58.9	5.4

※20回振りすくい取り調査結果、調査場所：水稻病害虫発生予察定地点ほ(45か所)

※平年はH27～R6年の平均値



アカスジカスミカメ



アカヒゲホソミドリカスミカメ



トゲシラホシカメムシ



クモヘリカメムシ

問合せ先 農業研究所 病理昆虫課
TEL076-429-2111 FAX076-429-2701